碩心

社団法人　日本詩吟学院岳風会　認可
神奈川　碩心会　発行

6年12月　（269号）
発行者　萃岸岳
編集者　愛岳
中村

6年12月現在　会員数
逗子地区　177名
葉山地区　207名
大船地区　43名
（合計　427名）

一月の行事予定

◎碩心会初吟会

日　時・平成7年1月8日(日)10時より

場　所・逗子会館

（ビーチセンター使用不能のため）

逗子会館となりました。

会　費・三千円

幹　事・12月11日、企画部　綾部秋岳方

幹　事・真澄、若葉

（当日出席者はネームプレート着用）

◎県本部初理事会

日　時・平成7年1月28日(土)10時半より

場　所・平塚農業会館

会　費・二千円

～～～～～～§～～～～～～

寒河江吟友会姉妹会提携10周年

吟行会のお知らせ

早いもので、寒河江吟友会と姉妹会を結んでから来年は十周年を迎えます。そして左記の通り吟行親睦会を計画いたしましたので、多数御参加をお待ちしております。

日　時・平成7年6月18日(日)～19日(月)

会　費・三万二千円

（参加人数により多少変更あり）

締切り・先着80名を予定しておりますので定員になり次第メ切ります。

積　立・希望者は一月より積立を行います。

コース・（逗子より観光バス）

（一日目）

逗子06・30＝横々道路＝浦和IC＝東北道＝白石IC（飯）＝山形道＝寒河江IC慈恩寺＝寒河江13・20～17・00（懇親会他）＝天童温泉17・30泊

（二日目）

天童温泉08・30＝タケウチ王将堂＝西蔵王高原ライン＝蔵王山頂お釜＝こけし部落＝遠刈田温泉（飯）＝二本松IC＝大隣寺＝東北道＝浦和IC＝横々道路＝逗子20・30

申込先・企画部長　綾部秋岳、又は副部長

内山俊岳、上村象岳迄

（支部毎にまとめ申込書はなるべく早くお願いします。）

（俳　句）

白井寿岳先生を悼む　石渡桂岳

晩秋の句座を名残りに逝きし君

木犀の香に振り返る寺の闇

詩吟の会の愉しみ

下山口　森合敬泉

私共葉山のふじみ会の有志が、ささやかながら詩吟の会と称して、六名で習い始めてから二年足らず…今はもっと若い人（と言っても中年の方）が入ってこられ八名になり、更に近いうちには十名位になるのではないかと、一同意気盛んなところをみせています。

当初、か細い声でチグハグな吟じ方をしてした頃、お互いに他の人の吟を、笑いを噛み殺して聞くのが精いっぱいで、先生からそこを指摘され、皆がドット声をあげて笑い興じたときのことがクッキリと思い出されます。又、今も毎回のようにこれがつづいています。その神妙な熱心さと、お互い気心を解りあえた安堵感、開放的な雰囲気、それが私共の会が今日楽しく続けられている理由ではないかと思っています。そして何よりも、沼田義岳先生の熱心な献身的なご指導のお陰であると、私共一同感銘しているところです。

私の手許のメモ帳によると、今迄に六十回、（十一月十二日現在）教わった詩歌は、概ね二十八題を数えています。先輩の各会が、何十年もの歳月を積重ねていられるのに比べるとほんの序の口ですが、私共のふじみ会の色々の趣味の会の中では、詩吟の会は仲々ヨウやっとる…ということになっています。はじめにも書いたように、最近は中年のふじみ会予備軍の面々も、二十年、三十年つづけられる奥深い趣味なそうや…の呼びかけに応じて、入会への関心を示されていることも大変喜ばしいことです。

次に私事ですが、戦前福島県の中学校時代、漢文の先生が朗々と漢詩を吟ずるのを聞いたのが詩吟との出会いです。退役の陸軍大尉で、立派なカイゼル髭を蓄えた先生が、右手に教本を持ち、左手を腰の後に廻して凛とした声音で、「金州城下作」や「芳野」（藤井竹外）を吟じられたのには、当時しびれるような感じを以て聞き惚れたものでした。以来茫々五十年、詩吟を吟ずることの愉しみ、特に気の充溢を感ずるときの一種えも言われぬ悦びと、余韻の味わい深さを、漸くこの頃になって少しづつ体験できるようになりました。とにかく吐気吸気声を出して吟詠することは大変すばらしい奥深いものだと覚り、親戚の集り、旧友との会合、幼い子供達の前などで、恥ずかしがることなく吟じております。

精進こそ不老の道、贅沢とは閑暇を充実させる心の自由と充実のことだ、という言葉を噛みしめて、これからもより一層進んでゆきたいと念願しています。

印象に残る詩

真澄　北村雅風

詩吟は頭と身体の健康によいからと、声もよく出ない還暦を過ぎてから真澄支部に入会しました。以来村田先生の温かい御配慮と、教室の方々の御親切に支えられて、早くも十年の月日が流れました。お稽古を楽しみにして、足腰の痛みをこらえて出席するよう努めています。

好きな吟を…ということでしたが、お稽古をしたのは、いずれも名吟ばかりで、その中から一つを選び出すのはむずかしいことですが、初めて独吟をした〃漫述〃が非常に印象に残っています。そして「謗者任汝謗」「嗤者任汝嗤」という心境が、漸く解るようになりましたが、これも年の功というものでしょ

うか。

吟を聞くたびに、昔の人の偉大さや心情が、心に沁みるようになり、今では忘れかけていた心を、詩吟だけに思いおこさせる貴重なものとなっております。〃継続は力なり〃とか、私も体の許す限り続けたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申しあげます。

文人墨客

堀内・D　五十嵐瑠璃子

江戸時代に入り年号が〃元和〃に変ると、元和堰武と言われたが、これは、元和になって武をやめる…つまり戦争が終ったという意味で、これ以後約三百年平和が続くのである。

幕府は、太平の世を維持するために、武よりも文によって統持する文治政策に重きを置くようになる。しかし、現実社会の中では、自らの学識や才能を有効に活かせない知識人も多かった。八代将軍吉宗の時代には満たされない思いをいだき、世俗的な生活を嫌悪し、私的な生活の中で、古典的な文雅、風流に遊ぶ場を確保しようとする人々、すなわち「文人」が生まれたのである。

江戸の文人達は、元祖の中国文人にあこがれ模倣することから始まった。彼等はその生活を船載された中国の文人達の詩文集や、書画によって知り、それを手本にした。

中国の文人達と同じように、漢詩文を作り、南宗画（水墨画）を画き、茶（煎茶）を喫し、琴を弾じ、花を賞した。画材としての花に関心を持ち、中国の瓶花思想の「形式にとらわれず、生ける人の主体性を重んじること」に通じ、花道家とは別に、文化人グループが花を生けたので文人生けといった。後に文人生けが流行し、煎茶の席にも使われ、竹籠や、中国風花器と立派な台を使い、個性的な生け方をした作品図を残している。日本には中国の煎茶以前に、抹茶による茶の湯があり、中国の瓶花以前に生け花の伝統がある。だが、形式主義におちいって、自由な楽しみの世界を失いつつある中で、文人達の茶や花、文学は、一つの活性的な役割を果すものであった。

（俳　句）　堀内・A　佐久間　爽　岳

冬蝶のいつ消え去りし日向かな
褶（ほだ）明り誰も大きな影を負ひ

（俳　句）　風　早　後　藤　道　岳

ふるさとはすでに父母なし柿の秋
をりをりの潮騒（しおさい）に馴（な）れ石蕗の花

二度とない人生だから

（坂村真民）

中　村　岳　愛

去る11月6日藤沢吟道会35周年大会に招かれた折、偶々南房総誠吟会々長の寺崎岳道先生としばらくぶりに再会いたしました。私ごとになりますが、寺崎先生とはふとしたご縁で、テイチクレコード吟詠大会に何回か先生の吟で舞わしていただき懐しく思いました。

その寺崎先生が今回招待吟で、左記の詩文〃二度とない人生だから〃を朗詠することになっており、私は楽しみにしておりました。この詩は、現代に生きる私達の魂のメッセージとして、人間のよろこび、悲しみを綴る、孤高の詩人、坂村真民の詩で、私は偶々本を買い求め読んでいたので、殊更、寺崎先生の朗詠に深く心から感動しました。

二度とない人生だから　（新体詩）

二度とない人生だから　一輪の花にも無限の愛をそそいでゆこう　一羽の鳥の声にも無心の耳をかたむけてゆこう
二度とない人生だから　まず一番身近な者たちにできるだけのことをしよう　貧しいけれどこころ豊かに接してゆこう

寒夜霜鐘を聴く

原　雙桂

残灯影暗くして草堂幽なり
夢覚むれば西窓に寒月流る
天外の霜鐘何れの処にか落つ
風吹いて半夜郷愁に入る

（語　釈）

霜鐘…霜夜に響く鐘の音

（訳　詩）

燃え残る　灯（ともしび）暗く山の堂
ただしずかなり
目覚めれば　西窓（せいそう）に　寒月
流る
霜の鐘　誰（た）が家に落つ
夜（よ）は深く　風吹きて　わが胸の
郷愁に入る

（原　雙桂）（一七一八～一七六七）

江戸中期の儒医。京都の人。生れつき英明で、神童と称された。学問を好み、儒学者及び医師としても一流であった。

（春夏秋冬より）

山上憶良（六六〇～七三三）

碩心会九月の指導者講習会で、山上憶良の「子等を思ふ一首」が取りあげられ、担当の千葉先生が資料をもとに、色々と研究、勉強の上発表され頭がさがりました。

作者山上憶良については、教本にも生没不祥とありましたので、私も自分なりに資料を探し、本をひもとき抜粋してみました。

憶良は文武天皇の大宝元年正月に、遣唐使の随員として入唐、「無位山上憶良小録となる」と記録にあり、時に42才。一介の庶民として生まれたらしい彼が、遣唐使の光栄ある随員として選ばれたことは、その学識才幹の並々ならぬことを示している。

滞唐二年で帰朝。57才の時伯耆の国の国守となり、後に聖武天皇の侍講となり、67才の時筑前の国守となり、大納言まで昇進している。

又大伴家持の父大伴旅人と親交があり、万葉集の作者とされている家持に、詩人としての憶良が影響を与えたことは、家持の作品をみても充分推定されるという。

岳　愛

「冬至」に湯治

冬至というのは、太陽が冬至点を通過する時で、毎年12月22日か23日頃に当る。地球の回転軸が、23度半ほど傾いているので、北半球では太陽が最も南に寄り、冬の季節で、夜が最も長くなることになる。

日本では、この冬至の頃に、ユズ風呂に入り、野菜類を沢山入れた〃冬至鍋〃なるものを食べる習慣がある。最も寒い冬至の夜に体を温めるため、粥や冬至鍋を食べて体の内側から温め、ユズ湯に入って、体の外側から温める。体を温めることによって体力が回復し、病気、殊に風の予防になるという。

このように冬至には温泉に行かなくても、家庭において、冬至鍋や、ユズ湯に入って、冬至に湯治をなさっては…。

（入　会）

746 石井美風（再）　逗子市桜山5－32－17－17号
☎〇四六八－七二－一一九六

（長柄）

（退　会）

146 小林紫風（逗子A）
224 角田正風（堀内・A）
397 飯島笙山（幅・A）
645 畠山絹子（幅・A）
649 高橋英泉（真　澄）